

渋谷 東急グループの渋谷開発

渋谷開発全体像



渋谷駅周辺の再開発計画は、2012年の「渋谷ヒカリエ」を皮切りとして、2027年までに「渋谷駅街区」「道玄坂一丁目駅前地区」「渋谷駅南街区」「桜丘口地区」「渋谷宮下町計画」の5エリアの開発を予定。東急グループは、世界から常に人と注目を集め続ける街「エンタテインメントシティ SHIBUYA」の実現に向け、街全体を活性化させる様々な開発／取組を行っています。これからの東急グループ、そして東急グループのまちづくりにぜひご期待ください。

提供：渋谷駅前エリアマネジメント協議会

渋谷駅街区 2019年度・2027年



桜丘口地区 2020年度



渋谷宮下町計画 2017年春



渋谷駅南街区 2018年秋



道玄坂一丁目駅前地区 2019年度



渋谷駅街区



渋谷駅周辺地区最大級の面積を誇るオフィスと商業施設を併せ持つ、「エンタテインメントシティ SHIBUYA」の中心的開発エリア。2014年8月より本格的な工事着手となった東棟には渋谷随一の高さを誇る屋外と屋内からなる展望施設が設置されます。東西駅前広場をつなぐ自由通路の拡充、地上地下の多層をつなぐ縦断線アーバンコアの整備、駅街区と宮益坂上方面／道玄坂上方面をつなぐスカイデッキの整備、災害時の帰宅困難者一時滞在機能整備など様々な機能の充実によって、より魅力的なまちを目指します。さらにデザインアーキテクトに、世界に高い評価を得ている隈研吾建築都市設計事務所およびSANAA事務所に起用し、渋谷の活性化のみならず日本全体のますますの発展につなげていきます。

【事業主体】 東京急行電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社
 【用途】 事務所、店舗、展望施設、駐車場等
 【敷地面積】 約15,300㎡
 【延床面積】 約276,000㎡
 【階数】 東棟：地上47階／地下7階
 中央棟：地上10階／地下2階
 西棟：地上13階／地下5階
 【高さ】 東棟：約230m／中央棟：約61m
 西棟：約76m
 【開業予定】 東棟：2019年度／中央、西棟：2027年

道玄坂一丁目駅前地区

東急プラザ渋谷および隣接するエリアの建て替えとなる当街区は、渋谷駅西口の玄関口としての再生が期待されています。渋谷駅街区と一体的な交通広場の再編を行うと同時に、1階の一部には空港リムジンバスの発着場を含むバスターミナルを導入します。また、高層部にハイグレードオフィス、中低層部には街の賑わいに貢献する商業施設を計画し、クリエイティブ・コンテンツ産業や外国系企業などを対象とした産業進出支援施設や、国内外の来街者を対象とした観光支援施設などの整備を行います。

【事業主体】 道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発組合（東急不動産は組合員及び参加組合員として本事業に参考）
 【用途】 事務所、店舗、駐車場等
 【敷地面積】 約3,330㎡
 【延床面積】 約58,900㎡
 【階数】 地上18階／地下4階
 【高さ】 約110m
 【開業予定】 2019年



桜丘口地区

渋谷駅中心地区の都市基盤整備を完成させる重要なプロジェクト。街区再編により新たに整備する都市計画道路の上空に広幅員の歩行者デッキを掛け、桜丘街区背後の丘陵地と渋谷駅との円滑なバリアフリーアクセスを可能とします。また、現在渋谷駅周辺で不足する生活環境の課題解消を目的として様々な生活支援施設を整備し、街の国際競争力強化に貢献します。さらに、渋谷のビジネス企業を育成するための起業支援施設を整備し、クリエイティブ・コンテンツ産業の更なる充実と国際競争力の強化を図ります。

【事業主体】 渋谷駅桜丘口地区市街地再開発組合（東急不動産は組合員及び参加組合員として本事業に参考）
 【用途】 事務所、店舗、起業支援施設、住宅、生活支援施設、教会、駐車場等
 【敷地面積】 約17,000㎡
 【延床面積】 約252,870㎡
 【階数】 A街区：地上37階 地下4階／B街区：地上32階 地下2階／C街区：地上4階
 【高さ】 A街区：約180m／B街区：約150m／C街区：約16.5m
 【開業予定】 2020年度

渋谷宮下町計画

都有施設の移転・更新等を契機に、複数所有地の有効活用を行うことで、周辺開発の誘発を図ることを目的に東京都が進める事業「都市再生ステップアッププロジェクト（渋谷地区）」における第一弾事業です。当計画は、低層部には商業施設、高層部には事務所・共同住宅を配置し、またシェアオフィスを中心とするクリエイターの創造活動拠点を設け、前面にはにぎわいと憩いの場となる広場を配っています。都心における多様な居住スタイルを促進するとともに、渋谷という立地にふさわしいさまざまな文化やファッション産業等の拠点を形成し、渋谷・青山・原宿を結ぶ人の流れを創出することにより、渋谷地区の特性の強化を図ります。渋谷宮下町リアルティ株式会社は、当計画がこれからの渋谷の新たな拠点となり、渋谷と原宿をつなぐ、街の活性化を図っていくことを目指します。

【事業主体】 渋谷宮下町リアルティ株式会社（出資者：東京急行電鉄株式会社、大成建設株式会社、サッポロ不動産開発株式会社、東急建設株式会社）
 【用途】 事務所、店舗、共同住宅等
 【敷地面積】 約5,000㎡
 【延床面積】 約35,000㎡
 【階数】 地上16階 地下2階
 【高さ】 約71m
 【開業予定】 2017年春

渋谷駅南街区



旧東横線渋谷駅ホームおよび線路跡地を利用した、オフィス、ホテル、ホール、商業施設などから構成される高層複合施設です。育成・創造・交流・発信を加速させる環境を創出することで、クリエイティブワーカーの聖地を目指します。また、国道246号を跨ぐ旧東横線の高架線路を活かした歩行者デッキや、立体広場空間（アーバンコア）などを整備し、国道246号で分断された渋谷の街を繋ぎ、新しい人の流れを創出します。これらの取り組みのほか、官民連携により渋谷川の清流復活水を活用した「壁泉」による潤いのある水辺空間や約600mにわたる緑の遊歩道整備など、代官山方面へと街の賑わいを繋げる緑と水のネットワークを形成します。

【事業主体】 東京急行電鉄株式会社、東横線隣接街区の地権者
 【用途】 事務所、店舗、ホテル、ホール、駐車場等
 【敷地面積】 約7,100㎡
 【延床面積】 約116,300㎡
 【階数】 地上35階／地下4階
 【高さ】 約180m
 【開業予定】 2018年秋

デジタルメディア

車両広告

駅広告

渋谷街メディア

沿線マガジン

バスマEDIA

その他

東急沿線エリア
データ編

東急線利用者
データ編

東急バス
データ編

その他
データ編